

環境マネジメント マテリアルバランス 日野環境チャレンジ2050
CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4 CHALLENGE! 5 **CHALLENGE! 6** 主要パフォーマンスデータ

CHALLENGE! 6 生物多様性インパクト 最小化チャレンジ



人と自然が共生する未来



近年、世界中の生物多様性は急速に失われており、たとえば野生動植物の絶滅スピードを例にとると、7分間で1種絶滅しているとも言われています(環境省HPより)。日野グループは、それら生物多様性から計り知れない「恩恵」を受け、同時に「影響」を与えつつ、事業を展開しています。

私たちの事業が生物多様性に与えるインパクトを極限まで低減し、人と自然が共生する未来づくりにチャレンジします。

未来へのインパクト低減：人をつくり、輪をつくる

次の世代につなげる

保全活動



生物多様性保全は現在に限った問題ではなく、長期的視点での取り組みが必要です。そのため、次世代を担う地域の子供たちにも関心を持ってもらうべく、生物多様性教育や関連イベントを積極開催していきます。また、地域住民や行政、関連団体との対話、連携、さらに周辺生物多様性関連活動への助成を進めることで、地域特性に合わせ、地域全体で取り組む体制構築を図っていきます。



地域のインパクト低減：生物多様性を守る

地球上のあらゆる

生物を守る



日野グループでは、各地域固有の特性に合わせ、希少動植物および在来動植物を保全し、生態系に影響を与える外来種の駆除をおこなうことで、地域固有の生物多様性を守ります。また地域特性を配慮した上で植樹、ビオトープ造成等を積極的におこなうことで、それぞれの事業所周辺地域の生態系に連続性を持たせ、「生態系ネットワーク」の造成に貢献していきます。



生物多様性への配慮

生物を守る

日野自動車は経団連「生物多様性宣言」に賛同しており、5カ年中期計画である『環境取り組みプラン』にも個別目標を掲げた上で、2015年度には「生物多様性ガイドライン」を策定し、社内の取り組み方向性、具体的取り組み内容等を定め、展開しています。

今後は周辺生態系との「共生」を図りつつ、企業としても成長し続けるため、策定したガイドラインに基づき、生物多様性に配慮した各種取り組みを推進していきます。同時に課題でもある社員の取り組み認知度や意識の向上を図るため、従業員参加型の活動を積極的に取り入れていく予定です。

生物多様性取り組み指針

- 製品環境技術の更なる追及
- 地域水資源への配慮
- 地道な環境取り組み(CO₂削減、省資源など)推進による生物多様性への貢献
- 社会との連携・協力
- 積極的な情報開示

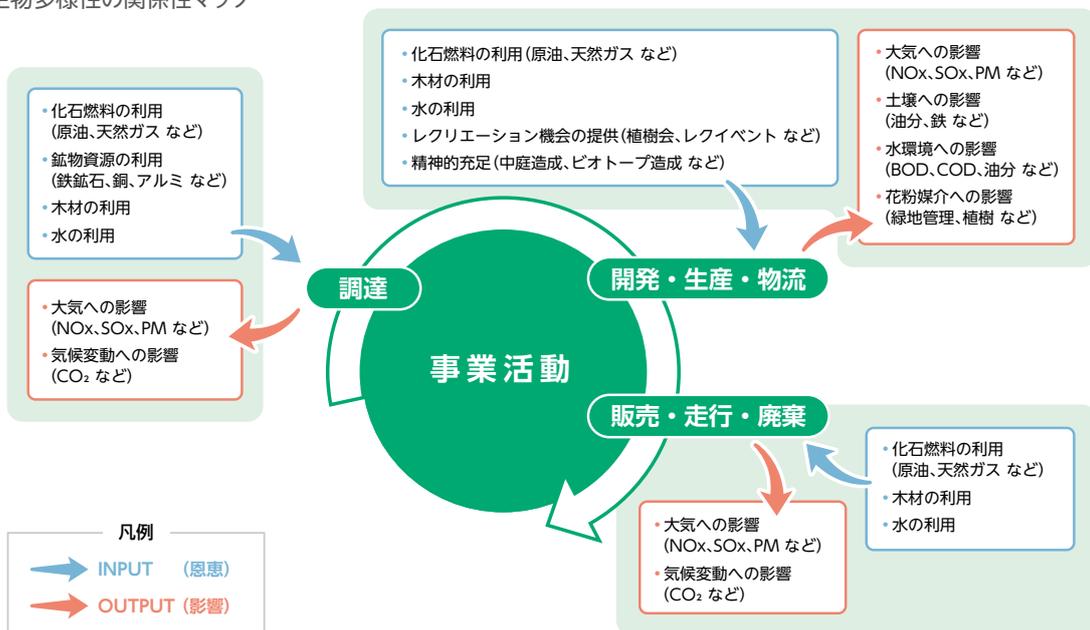
事業活動と生物多様性の関係整理

生物を守る

日野自動車は、『企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)』が定めた「企業と生物多様性の関係性マップ」(下図参照)を参考に、製品ライフサイクル各段階における「恩恵」と「影響」を整理しました。日野自動車は事業をおこなうなかで、製品ライフサイクル全体で自然の「恩恵」を受けており、また同時に「影響」を与えています。これらによる「生物多様性」への環境負荷を少しでも低減すること、周辺生態系を害さないことが、重要なポイントとなります。



● 企業と生物多様性の関係性マップ



取り組み事例

生物を守る

◆各事業所周辺の動植物調査

各事業所周辺の生態系を把握するため、事業所内外の緑地、周辺河川などを中心に動植物の生息状況を調査しました。結果、「ニホンスッポン」、「トラツグミ」など、レッドリスト（絶滅のおそれのある動植物種のリスト）などに掲載される希少種も数多く確認されています。

この豊かな自然との「共生」を目指し、各種取り組みを推進するのと並行し、今後も定期的に動植物調査を継続していきます。



動植物調査の様子



ニホンスッポン



トラツグミ



古河工場のヤギ

◆日野台の杜

日野自動車本社内に、1970年の本社社屋完成を機に構築された「日野台の杜」（約6,000m²）があります。日野台の杜では、会社創業時に植栽され、会社とともに年輪を増していったヒマラヤ杉13本をはじめ、さまざまな自生した草木が「自然な自然さ」と「意図された逞しい自然」と「湧水」を組み合わせています。また、杜には、セミやバッタ、アメンボなどの昆虫類や白サギや小鳥が群れ集まり、武蔵野の自然をつくっています。

日野自動車では、今後も、この自然を大切に維持・管理していきます。



日野台の杜

◆古河工場周辺河川における生態系調査イベント

古河工場では周辺河川に直結している工場内調整池において、工場近隣の小学生と一緒に水生生物の学習イベントを開催しました。

結果、地域在来の多くの水生生物が確認され、改めて豊かな生態系に囲まれていることを共有すると共に、今後も事業活動を続けていくなかで、「周辺生態系への配慮を忘れてはならない」ことを再認識する場となりました。



環境マネジメント マテリアルバランス 日野環境チャレンジ2050
CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4 CHALLENGE! 5 **CHALLENGE! 6** 主要パフォーマンスデータ

環境教育

保全活動

日野自動車では、効果的な環境保全活動を進めるため、社員の環境意識向上を目指して、環境教育・啓発活動を推進しています。環境活動は企業として取り組むだけでなく、社員一人ひとりが職場や家庭でも取り組むことが大切であると考え、環境問題全般や世界の動向と取り組み、自分たちがやるべきことなどについて、積極的に社員教育に盛り込んでいます。具体的には、新入社員教育や管理職研修プログラムに環境教育を組み込んでおり、今後もより広範囲で体系的な環境教育を実施し、環境意識の継続的な啓発に努めていきます。



教育の様子

● 2017年度環境教育受講人数

(単位：名)

	事務・技術職	技能職	合計
受講者数	148	456	604

◆ 環境かわら版の発行

環境に関するニュースをキーとし、世間の動向や各業界の動向などを「環境かわら版」としてまとめ、全社員に向けて、四半期毎に発行しました。

社員一人ひとりが環境問題に対して関心を持ち、「自分たちに何ができるか」を考えるきっかけになっています。



◆ 事務所周辺の地域清掃活動

日野工場、羽村工場、新田工場をはじめ、近隣のグループ会社にもご協力いただき、各事業所周辺にて、地域清掃活動を実施しました。全社員が実際に汗を流す体験を通じて、環境意識や通勤マナーの向上を図りました。



羽村工場

◆ ライトダウンキャンペーンに参加

全国で一斉に消灯するキャンペーン『ライトダウンキャンペーン』に2007年から参加しています。一斉消灯時(毎年キャンペーン事務局が設定)はもちろん、キャンペーン期間中は継続して主要事業所の看板照明などを消灯しています。このキャンペーンには、国内販売拠点をはじめ、多くのグループ会社も参加しています。



羽村工場正門の夜間消灯時



点灯時

環境マネジメント マテリアルバランス 日野環境チャレンジ2050
CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 CHALLENGE! 4 CHALLENGE! 5 **CHALLENGE! 6** 主要パフォーマンスデータ

社外との環境コミュニケーション

保全活動

日野自動車はステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを重要視しています。お客さまや地域の皆さまを含め、積極的に情報展開することで信頼される企業を目指します。

◆ 社外技術展での製品環境技術紹介

「人とくるまのテクノロジー展2017：横浜・名古屋」に車両、エンジンなどを出展し、日野自動車の製品環境技術を紹介しました。来場者の皆さまに、エンジンの構造、次世代車に対する日野の取り組み方針について御理解を深めて頂く機会となりました。



見学者でにぎわう出展ブース

◆ 地域環境イベントでの環境取り組み紹介

東京都羽村市で開催された「羽村市環境フェスティバル」、群馬県太田市で開催された「太田市産業環境フェスティバル」において日野自動車のさまざまな環境取り組みを紹介しました。

工場周辺地域の環境イベントということもあり、地域の皆さまを中心に日野自動車の環境に関する考え方や実際の取り組みを広くPRすることができました。



「羽村市環境フェスティバル」の様子

◆ 海外政府への環境取り組み紹介

インドネシア環境林業省が日野自動車の環境保全対策視察のため、日野工場を訪問されました。日野自動車の環境取り組みを紹介すると同時に、現地の環境保全対策をご紹介いただくなど貴重な情報交流の場となりました。



インドネシア環境林業省ご一行

日野自動車グリーンファンド

日野自動車は、1991年に環境保全活動への助成をおこなう公益財団法人 日野自動車グリーンファンドを設立しました。財団は毎年15前後の団体に助成をおこなっています。その地道な活動が評価され、2005年度には環境大臣賞「環境保全功労者表彰」を受賞しました。また2011年4月1日をもって公益財団法人日野自動車グリーンファンドになりました。今後も各種活動への助成・イベント実施等、地道ながら着実な活動を継続していきます。

 [公益財団法人 日野自動車グリーンファンドのページはこちら](#)



「魚つかみ取り体験」(体験イベント)